

平成30年度 地域でつながる家庭教育応援事業

# 地域家庭教育推進県北ブロック会議 (第2回)

日 時：平成31年1月21日(月) 14:00~16:00  
場 所：杉妻会館会議室「百合」  
座 長：福島大学 人間発達文化学類 教授 原野 明子 氏

## 〈会議の趣旨〉

- ① 今年度の家庭教育応援事業の取組状況を振り返り、成果と課題を検証する。
- ② 親を支援するための「地域家庭教育推進県北ブロック会議宣言(仮称)」作成のための協議を行う。

## 1 平成30年度地域でつながる家庭教育応援事業の取組状況について

### (1) 親子の学び応援講座

今年度のテーマである「自己肯定感」の形成を目指し、県北域内に4つのモデル連合PTAを設置し、親の学びや家庭での実践を支援してきた。また、各地区の課題に応じた講座を実施し、自己肯定感の形成が実現できるよう、家庭教育応援事業を推進してきた。

#### 〈第1回〉 川俣町PTA連絡協議会

開催日：平成30年8月1日(水)

講師：山本和宏氏(福島県学校教育相談員)

テーマ：「子どもの自己肯定感を高める親・教師の接し方」

#### 〈第2回〉 二本松市立安達中学校区PTA

開催日：平成30年11月5日(月)

講師：橋本亜由美氏(ふくしまボンガーズ/おかちゃん)

齋藤 智暁氏(ふくしまボンガーズ/ムッシュ・サイトー)

テーマ：「これまで歩んできた道、そしてこれからの福島に寄せる思い」

#### 〈第3回〉 伊達地区PTA連絡協議会

開催日：平成30年11月10日(土)

講師：宍戸仙助氏(特別非営利活動法人「シーエスアールスクエア」理事長)

テーマ：「東南アジア、山岳少数民族の子どもたちの瞳の輝きから学ぶ」

#### 〈第4回〉 福島市立福島第三中学校区PTA

開催日：平成30年12月1日(土)

講師：永澤亜希子氏(NTTドコモ スマホ・ケータイ教室 CS東北 インストラクター)

テーマ：「スマホ・ケータイ安全教室」～スマホ・ケータイと正しく付き合うために～



## 【〇成果 △課題】

- 〇 域内4地区の連合PTAでそれぞれの課題に応じた講座を実施したことで、自己肯定感の形成に向けて家庭や地域で何が求められるかを、より多くの保護者へ啓発することができた。
- △ アンケート結果を踏まえ、保護者がどのような研修内容を求めているかを把握した上で、講座の内容や講師の選定を行うようにしていく。

## (2) 県北地区フォローアップ研修

明石氏の社会教育学の視点からの講話を通して、子どもたちの自己肯定感を高めるための取組を家庭や地域で行っていただけるように、本研修を実施した。

開催日：平成30年10月29日（月）

講師：明石要一氏（千葉敬愛短期大学 学長／国立青少年教育振興機構青少年教育センター長）

テーマ：「自己肯定感を育むために」～今の子どもたちに必要なこと～

### 【○成果 △課題】

- 参加者同士の話し合いを交えた明石氏の講演を通して、子どもたちの自己肯定感を高めるために必要なことを共有することができた。
- 保護者や教員、家庭教育支援に関心のある様々な立場の人が集まり、講演内容を踏まえた協議を行ったことで、社会全体で子どもたちの自己肯定感を形成していくための方策を模索することができた。
- △ グループ協議の話し合いの視点をより明確にして協議を行う必要があった。講演内容を具現化するために、それぞれの立場でできることを話し合っているよう議題設定などを再度検討し、より充実した研修になるように改善を図っていく。

## (3) 家庭教育応援企業推進活動

### ① 申込み状況

今年度は県北域内で35社（累計165社）から申し込みがあった。（※1月18日現在）

家庭教育応援企業の認証書を交付し、企業の立場から家庭教育の支援を行っていただいている。

### ② 家庭教育応援企業研修

実施企業：おおたま村づくり株式会社

開催日：平成31年1月15日（火）

講師：井間眞理子氏（福島県学校給食会専門栄養技師）

テーマ：「野菜と健康」

### 【○成果 △課題】

- 企業と連携し、家庭教育の推進に向けた企業内研修を実施することができた。また、全県研修やフォローアップ研修等に、応援企業の方々の参加を得ることができ、企業の立場からの意見を発信することができた。
- △ 家庭教育の推進に向けた資料提供等の支援を充実していくためにも、応援企業との連携を密にして、企業で求められているものの把握に努めるとともに、各企業で実施している取組の広報に努めていく。

## 2 地域家庭教育推進県北ブロック会議宣言（仮称）について

### (1) 作成の意図

◎ 親が少しでも余裕をもって子どもに向き合えるよう、社会全体で家庭教育を支えていくため。

【そのために】⇒ブロック会議の協議内容（親子の学び応援講座やフォローアップ研修の内容等）が伝わるよう、メッセージ形式の短い文章にして、域内の小・中・特別支援学校の保護者に広く発信していく。

### (2) 活用方法

- ・ 各校のPTA 総会、保護者会、懇談会で配布
- ・ 各地区のPTA 協議会での配布
- ・ 家庭教育応援企業で従業員に周知 等
- ・ 配付方法については、今後検討する。

### (3) 記載する内容

- ・ 親が、子育てに悩んだときや余裕をもてないときに見て、ほっとするような、元気が出るような、我が子を見つめ直せるような、そんな言葉をメッセージとして記載する。
- ・ 保護者の支援に役立てるため、裏面には、相談機関の情報を載せる。



#### (4) 話し合いの実際

##### ① 裏面に掲載する「相談機関の情報」について

- ・ 相談機関については、県全体を網羅している相談機関と地域に設けられている相談機関の掲載が望ましい。
- ・ 地域の相談機関が望ましいと考えたが、地域の相談機関だと、近い故の難しさもある。知り合いなどの場合には、相談しにくい。
- ・ 相談する機関にも対応できる年齢があるので、家庭向けや児童相談向けの相談機関を掲載した方がよい。
- ・ 県全体の情報だけでなく、地域ごとの相談機関の掲載は効果的だと思う。
- ・ 相談内容に応じて、地域の相談施設から一つずつ掲載してみてもどうか。
- ・ 「いじめ」「SNS」などの問題に対応する相談機関の情報も必要ではないか。

##### ② メッセージの作成について

〈各班から出されたメッセージ例〉

- 困った事、悩んでいる事があったら一人で抱え込まないで、勇気をもって言葉にし、誰かに相談 自分ばかりでないんだよ
- あなたの笑顔がある限り 私たちは頑張れる 生まれてきてくれて「ありがとう」
- 五つ言い 一つできたら ほめて励ます
- 一日一回自分をほめて 一日一回子どもをほめて  
自分の良いところ見えるはず 子どもの良いところみえるはず
- ありがとう！ その言葉ひとつで 心がほっこり
- 疲れたら いつでもおいで 一家団らん 明かりの下で 一緒に泣き笑い
- とがってる 我が子と向き合う親心 「最後まであなたの味方」と 目を見つめ
- 笑顔で過ごそう！ 幸せだから笑うのではなく 笑うから幸せなんだ
- 失敗は ミスじゃない 成長の証
- スマホより SNSより わが子の笑顔
- 家族も職場も学校も どこでも大事な魔法のことは 「そだね〜」 など

構成員の方々は、今年度の取組状況と自分たちの子育て経験を踏まえて、保護者への応援メッセージを温かい言葉で表現した。どのメッセージも、子育てに悩む親の背中をそっと押してあげる不思議な力にあふれていた。また、裏面には、子育てに困ったとき、相談できる機関の情報が掲載されるので、「私は一人じゃない」という安心感が親の心に育まれることが期待される。

### 3 成果と課題 〈 ○成果、△課題 〉

○ 学校、PTA、行政、企業、地域などそれぞれの立場の構成員が一同に介し、自己肯定感の形成に向けた今年度の取組状況や成果と課題を検証することができた。今年度の取組を次年度につなげるため、それぞれの立場で何ができるかについて、参加者全員で考えを深めることができた。

○ 今年度の本事業の取組状況を踏まえ、ブロック会議の構成員が考えを出し合い保護者向けのメッセージを作成した。学校やPTAに送付して、家庭教育の支援に役立てる手立てとすることができた。家庭教育をより一層推進していくために必要なことを話し合ったことで、次年度のブロック会議の方向性について参加者全員で考えを深めることができた。

△ 様々な要因で子育てに余裕がもてない保護者への支援を、地域全体で担っていく方策を、ブロック会議の場で模索していく取組を継続していくことが必要である。

△ 各地区で実施したアンケートやブロック会議での協議等を通して、今の時代に求められる家庭教育の課題を洗い出し、より多くの保護者の学びにつなげていくことが求められる。

